

## 親子の視点に立った環境学習教室の企画と運営 - 八穂環境学習教室の事例 -

谷口庄一（株式会社都市機能研究所社会デザイン研究室，  
愛知産業大学・東海工業専門学校非常勤講師，中部ブロック）

### 1. 背景

ポスト工業化社会としての循環型社会への転換が模索されている中で、まちづくりや都市デザインにも循環型社会を意識した計画思想や理念の導入を行った循環型環境都市の構築が求められている。

循環型環境都市の構築には都市の構造を対応させていくだけでなく、社会システムや個人の生活などの対応も必要となる。しかし、環境問題という社会の課題を個人の課題と連動させるためには、利己的になりがちな合理的な個人行動を利他的な行動へ誘引する必要がある。

愛知万博では EXPO エコマネーという社会システムの実験を行った結果、楽しみながらエコ活動をする事が多くの利他的行動を得ることが観察された。その際、個人に働きかけるよりも、家族などの中間集団への働きかけが有効であり、特に子供との環境問題に関する合意形成が重要であった。子供は合理的な判断よりも社会規範による判断が優先されるためであると考えられる。

そこで、親子への働きかけを通じて利他的な環境配慮行動を誘引させる手法として環境学習教室に着目し、環境配慮行動の再現実験を行った。

### 2. 八穂環境学習教室の概要

八穂環境学習教室は八穂クリーンセンターの施設を利用して開催している。八穂クリーンセンターは津島市、愛西市、弥富市、七宝町、美和町、大治町、蟹江町、飛島村からのごみの処理施設である。さらにごみ焼却の余熱、資源の有効利用を図り、再生利用を推進するため家具・自転車等のリフォーム業務も行っている。

八穂クリーンセンターというごみ処理施設の理解を深めるために施設を開放し、より多くの地域住民が気軽にゴミと環境問題を理解してもらおうと企画されたものである。プログラムは以下の4つの柱を設定している。

#### ●資源ゴミを活用した環境工作教室

ガラス瓶エッチング、キャンドルづくり、操り人形等

#### ●敷地内の調整池等の活用

ビオトープ観察、観察写真教室

#### ●愛知県産間伐材の活用

木工教室、カブトムシ観察、シイタケのホダ木づくり

#### ●環境を意識した生活提案

アロマ石鹸づくり、マイ箸づくり

上記プログラムを通じて、親子で環境問題について考えることを目的としている。基本的に、手とからだを動かしながら、身近な生活の視点から地球環境・地域自然環境について考えるきっかけをつくっている。

2006年4月より月2回開催し、現在までで延べ942人（大人496人、子供446人）が参加した。

### 3. インタラクティブな運営

当教室の運営には「親子」「講師」「職員」の3者がトライアングルを描くようにデザインしている。

子供の教育ではなく、親子参加が原則であり、子供向けのプログラムではなく、親と子が協働で行うプログラムとし、親子間の対話を誘発するようにしている。

講師には環境活動を行っている若者を登用しており、環境教室講師の経験と実績を積む場としている。

職員はプログラムコーディネーターを行っている筆者や講師陣に丸投げを行うのではなく、積極的に企画・運営に参加させている。ビオトープ観察などは定期的に観察を行ってホームページ上で報告を行っている。

### 4. 波及効果

職員の自発的な活動として「あちち防止隊」が結成され、地球温暖化防止に関する出張環境教室が運営されるようになった。講師陣からは新たな人材の紹介などがされたり、環境イベントなどの相互乗り入れなどの連携が検討されるようになった。参加者もリピーターが増えるようになると共に、クチコミによる増加も見られるようになった。

### 5. マスメディアとの相乗効果

メディアの環境キャンペーンや番組と連携し、活動意識を芽生えさせ、その受け皿として機能できるようにしている。

